

## 令和４年度 千歳市市民評価会議議事録

|       |                            |     |              |
|-------|----------------------------|-----|--------------|
| 会 議 名 | 市民評価会議（第７回）                |     |              |
| 日 時   | 令和４年７月７日（木）１４：００～１６：３０     | 場 所 | 市役所本庁舎１階会議室９ |
| 出 席 者 | 市民評価委員 ７名、アドバイザー １名、事務局 ２名 |     |              |

|             |                                                                                                                        |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価対象<br>施 策 | （１）アイヌ文化の保存・継承と普及・啓発の推進<br>（２）水道・下水道施設の適切な維持管理の推進<br>（３）水道・下水道事業における災害対策の推進<br>（４）優良農地の確保<br>（５）母子保健対策の充実              |
| 会議概要        | ５施策について、第４回及び第５回市民評価会議におけるヒアリング内容を踏まえ、評価のまとめを行った。<br>今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、事務局が報告書（案）として取りまとめ、第８回市民評価会議に諮ることとした。 |

### ヒアリング・評価内容

#### （１）アイヌ文化の保存・継承と普及・啓発の推進

##### ・評価結果「拡充」

##### 【アドバイザー】

市職員に対する啓発は意見として取り入れたほうがよい。

##### 【委員Ａ】

数年後に担当が変わることを考えると、きちんと施策が引き継がれるために取り入れたほうがよい。

##### 【委員Ｂ】

担当以外の職員がアイヌの文化や施策を知ることによって、他課との連携が深まり、さらに施策を推進することができるので取り入れたほうがよい。

また、差別や偏見をなくすために良かれと思って行っていることが、新たな差別や偏見を生む可能性もあるので、積極的かつ慎重に施策を推進してほしい。

##### 【アドバイザー】

差別や偏見を生まないためには、アイヌの精神性や民族性など、「正しく文化を理解する」というヒアリングでの担当の言葉がとても大事である。

##### 【委員Ｃ】

以前、テレビ番組でアイヌのことをギャグに取り入れ、問題になったことがあるが、何が差別にあたるのか想像できない人もいる。正しく伝えていくことが重要。

##### 【委員Ｂ】

差別にあたるかどうかを想像できないのは「無知」ということが原因である。

##### 【委員Ｃ】

番組を作る側はきちんと勉強することが大事である。

##### 【委員Ｂ】

委員Ｃがシートに記載した「アイヌの人々が誇りを持てる環境を作る」ということがこの施策

の一番重要な目的である。

【委員 D】

インターネットなど、あらゆる方法を活用し、アイヌ文化を普及啓発する必要がある。

【委員 B】

インターネットを活用するのはよいが、差別や偏見に注意が必要である。地域では周りの目があり、ある程度の抑止力が働くが、インターネットではそれがない。差別があったときに、アイヌの人々を守る空気が市内に作られるとよい。

## (2) 水道・下水道施設の適切な維持管理の推進

### ・評価結果「維持」

【アドバイザー】

中心市街地の供用されている下水道管を分流式に変えるのは難しいということとは理解できるが、計画的に進めてほしいということについて記載してよい。

【委員 B】

記載してよい。

【委員 E】

9月10日は下水道の日ということでPRしていると思うが、全国的にはマンホールの蓋をユニークにする取組が行われている。老朽化で蓋を交換するときに、この取組を取り入れるのもよいのではない。

【委員 D】

ポケモンとタイアップしているところもある。すべてのマンホールは無理でも、観光地などの目立つ場所で取り入れてはどうか。

【アドバイザー】

マンホールの写真を撮って送るとポイントがもらえる自治体もある。自治体としては、現地に行かなくても、老朽化や破損について把握できるというメリットがある。

【委員 C】

千歳市は、下水道の普及率がトップレベルであることなど、PRできる部分がある。

【委員 E】

水道の維持管理には、市民の協力が必要不可欠であるが、専門用語などを用いて説明されても市民は理解できないと思う。例えば、雨水と汚水など、漢字を見れば違いがわかるかもしれないが、聞いただけではあまりわからない。雨水や汚水を放置するとどのような被害が起こるか理解できれば、排水管の周りを掃除するなど、協力する市民もいると思う。

【委員 B】

水道に馴染みがない人は、専門用語を知らないので、わかりやすい言葉で説明したほうがよい。

【アドバイザー】

水道は市民生活に直結する重要なことにもかかわらず、市民にあまり伝わっていないので、PRしていく必要がある。また、市民へのPRは、分流式下水道管への変更を計画的に進めていくことにもつながる。

### ( 3 ) 水道・下水道事業における災害対策の推進

#### ・評価結果「維持」

##### 【委員 B】

災害時に迷うことなく対応できるよう、全体の手順をロードマップ化することが必要だと思う。いざ災害が起こると右往左往してしまうので、ざっくりと道筋が示されたものがあるとよい。

##### 【委員 E】

胆振東部地震のときも千歳市はあまり被害がなかったので、災害の経験が少ないと思う。

##### 【委員 D】

当時、水道局には発電機があったので、携帯電話を充電するために外国人観光客が多く来たが、充電ができたとしても、災害時はインターネットが繋がらないので情報を得ることが難しく、市職員も情報がなかったと思う。

##### 【委員 C】

簡易トイレを使用するのも、初めは難しいと思う。防災訓練で使い方など周知していると思うが、訓練に参加しているのは、町内会の役員などで、一般市民が参加することは少ない。

##### 【委員 B】

啓発を一生懸命やらないと、いざというときに担当者以外は何もわからないという状況になる。啓発方法も含め、きちんと考えていかなければいけない。これは水道だけの問題ではなく、災害対策すべてにおいて言えることである。

##### 【アドバイザー】

防災部局や町内会との連携のほか、災害時の想定について、市民への周知に努めることが重要。

### ( 4 ) 優良農地の確保

#### ・評価結果「維持」

##### 【委員 F】

排水機場補修について、令和 5 年度以降の費用が多額であることは理解したが、対応年度は未定となっているものがたくさんある。

##### 【委員 A】

機器の耐用年数や更新計画などが示されていれば「拡充」でもよいと思うが、明確になっていない。

##### 【委員 G】

ヒアリングのときに、千歳市の農業全体をどのようにしていきたいのか示すべきであったが、千歳市の農業の現状さえも把握していないというのはどうなのか。

##### 【委員 D】

他の施策では、施設の改修があっても「維持」としているので、本施策も「維持」でよいのではないか。

##### 【委員 B】

多面的機能支払事業の行っている内容は理解したが、今後の展開が見えてこない。

##### 【委員 G】

多面的機能支払事業は、国の事業であり、生産者からの要望ではないので、実態と乖離している可能性があるのではないか。

##### 【アドバイザー】

国の方針で始まった制度なので、市民的には違和感があるのかもしれない。

【委員 D】

現在の能力を維持するために施設の改修を行うという意味合いに感じるので、費用がどうであれ、施策的には「維持」だと思う。

【委員 A】

排水機場の現状がどうなっているのかわからない。それが見えれば、施策としては「維持」だが、費用面では「拡充」と判断できる。

【委員 C】

改修しないとどのような被害があるのかなど示してほしい。

【委員 B】

この施設改修の重要性を説明できるようにしてほしい。

【委員 G】

多面的機能支払事業についてだが、農協の資料を見ても「国の方針に基づき」と記載されているので、実際に行っている団体の目的も明確ではない。

【委員 E】

農協の人に千歳市の農業では何がメインなのか聞いたときは答えがあった。担当課も把握しているとよい。

【アドバイザー】

他課や関係団体との連携については記載するか。

【委員 B】

記載する。

## ( 5 ) 母子保健対策の充実

### ・評価結果「維持」

【委員 G】

実施事業が多いので市民が全部把握するのは難しいと思う。

【委員 B】

事業をグルーピングし、その名称を市民に周知したほうがわかりやすいかもしれない。

【委員 G】

保健師は施策と支援対象者をマッチングさせる役割がある。それがうまく機能していないのではないか。

【委員 C】

子育てに関する事業数が増えたのは平成 28 年頃だったと思う。色々な事業を実施するのは良いことだが、現場や市民が追いついていないのではないか。

【委員 B】

わかりやすく伝えることが必要である。

【アドバイザー】

ネウボラの取組は良いが、ファイルが分厚いのでどこを見たらよいのかわからないのかもしれない。

【委員 A】

ネウボラはみんなに使ってほしいのか、セーフティーネットを必要としている人に使ってほしいのか明確にするとよい。

【委員 B】

ネウボラファイルは細かく作られているが、どう使っていくのか吟味されていないので、市民にうまく伝わらないのではないか。

【委員 A】

メタボリック症候群などのライトな健康課題や、祖父母が子どもを育てるなどの家庭の課題についても、他課と連携できるともっとよい。

【アドバイザー】

公衆衛生よりも福祉に重点が置かれている印象を受けた。

【委員 A】

千歳市は自殺者が多いので、親世代のメンタルヘルスなどの問題にも積極的に取り組むとよい。